

創作ポップアップカードを活用した 中部横断自動車道の利用促進

福島匠

静岡市 建設局 道路部 道路計画課（〒420-8602 静岡市葵区追手町5-1）

インフラは都市の発展や生活の向上、防災など、様々な効果を目的に整備されており、その効果をより大きく発現させ、持続させるためには、整備後の啓発や利用促進など、幅広い役割が広報に求められる。本稿では、中部横断自動車道の利用促進に創作ポップアップカードを活用し、整備効果の向上を目指す静岡市の取組を紹介する。

キーワード：静岡市、中部横断自動車道、広報、啓発、利用促進、創作ポップアップカード

1. はじめに

中部横断自動車道は、静岡市清水区から長野県小諸市に至る、全長約132kmの高速道路であり、新東名高速道路、中央自動車道及び上信越自動車道と接続し、中部地方における南北交通の大動脈として機能することが期待されている。

本市においては、平成31年3月、南端の新清水JCT（静岡市清水区）～富沢IC（山梨県南巨摩郡南部町）間の開通ともない中部横断自動車道に接続し、山間地によって隔てられた山梨県、さらに長野県へとつながる、新たな交通ネットワークの玄関口が開かれたところである。

新東名高速道路と中央自動車道を結ぶ、新清水JCT～双葉JCT（山梨県甲斐市）間（図-1）約74kmは、令和2年7月現在、未供用区間（南部IC～下部温泉早川IC間）約13kmの整備が進められ、令和3年夏頃の開通が見込まれている。当該区間の開通により、かつて国道52号を経由し、約2時間30分を要した静岡市清水区～甲府市間の移動が、約1時間30分に短縮される見込みであり、本市と甲信越地方との交流人口拡大をはじめ、地域活性化、観光振興、物流強化、防災機能の向上など、幅広い整備効果が期待されている。

中部横断自動車道に関し、本市ではこれまで整備促進を目的とした広報活動を展開していたが、市内区間の整備完了及び、引き続き全線開通に向け、共に取り組むことを確認した静岡市、長野県佐久市両市長の対談を契機に、利用促進に力を入れた新たな広報活動に取り組んでいる。



図-1 中部横断自動車道（新清水JCT～双葉JCT間）

2. 創作ポップアップカードができるまで

(1) 背景

中部横断自動車道の整備促進及び利用促進に取り組む本市道路計画課にとって、平成30年度は特別な一年となった。記念すべき市内区間の開通初年度を迎え、これまでない広報活動が求められる中、中部横断自動車道

整備促進静岡県中部地域協議会における、田辺静岡市長と柳田佐久市長を交えたパネルディスカッション（図-2）や、開通記念ウォーキングイベント「新清水JCTを歩こう！」（図-3）など、職員の発案による新たな企画に取り組んだ。



図-2 中部横断自動車道整備促進静岡県中部地域協議会



図-3 中部横断自動車道開通記念「新清水JCTを歩こう！」

広報活動の企画にあたっては、対象や伝えたい内容を明確にして、テーマを持って戦略的に取り組むこととし、これらのイベントは特に、参加者が楽しみ、記憶に残ることを意識したものである。

また、全庁的な取組として、首都圏在住の関係者約500人を招き、本市の様々な取組や特産品、最新情報を発信する「静岡市交流会～Shizuoka Night 2018～」(図-4)を、平成30年12月に都内で開催し、本課は中部横断自動車道に関する広報ブースを出展した。

市内区間の開通が近づいた時期に、首都圏に向けて利用促進をPRできる絶好の機会であったため、中部横断自動車道への興味を持たない来場者を立ち止まらせ、強く印象づけるような、画期的な広報のアイデアが求められた。

出展にあたっては、これまでにない展示によって来場者を惹きつけることを目指し、その核となる展示物を新たに制作することとなった。



図-4 静岡市交流会～Shizuoka Night 2018～

(2) 創作ポップアップカードの概要

ポップアップカードとは、折り畳まれたカードを開くと、中から立体的な造形が現れる、ペーパークラフトの一種であり、建築物をはじめ、様々なモチーフを立体的に表現することが可能である。（図-5～図-6）

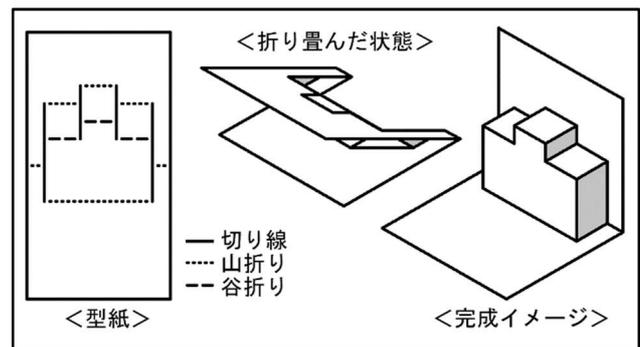


図-5 ポップアップカードの仕組み

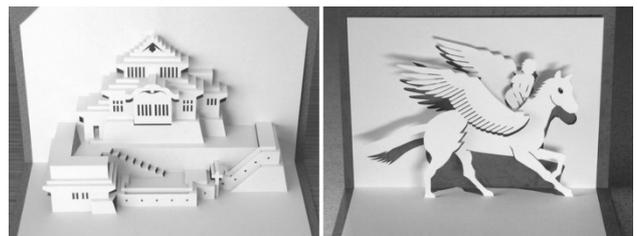


図-6 ポップアップカードの制作例（筆者による）

筆者が約20年にわたる趣味として、ポップアップカードの創作に取り組んでいたことが発端となり、これを展示物として活用できないか思案した。その結果、市内の観光名所をモチーフとした創作ポップアップカードを制作、展示して本市の魅力を発信し、さらに中部横断自動車道によるアクセス向上をPRすることで、本市への来訪者を増やすという構想が生まれた。

さらに検討を重ねる中で、新たな広報の手法として、次の点で優れていることが見込まれ、創作ポップアップカードを展示物とすることが決まった。

a) 来場者を惹きつけること

カードを開くと立体的な造形が出現するという意外性と、一枚の紙を切り折りして様々な形を表現する構造的な面白さがあり、さらに光と影が生み出す独特の立体感により見栄えがすることから、展示物として優れた特性を持ち、来場者を惹きつけることが期待される。

b) 見るだけでなく、作ることが可能なこと

創作ポップアップカードを展示するだけでなく、型紙を来場者に配布し、これを組み立てることで、展示物と同じものを再現することが可能となる。

実際に作る作業を通じ、中部横断自動車道や観光名所の印象が一層強まることが期待される。

c) 低コストであり、利便性が高いこと

職員自身が創作することから、デザインや制作に関する外部委託が不要となり、費用が材料費や印刷費のみに抑えられ、低コストでの展示が可能である。また、平らに折り畳むことが可能なため、会場への持ち運びが容易である。

配布する型紙は特殊な加工を必要とせず、市販のA4判厚紙を用い、一般的なカラープリンターで印刷可能なため、印刷や増刷が容易であり、配布物としても高い利便性が期待される。

(3) 制作過程

市内の観光名所のうち、特に創作意欲が湧いた久能山東照宮や登呂遺跡などをモチーフに選び、現地を踏査しながら完成形のイメージを練った。

ポップアップカードの構造的な特性として、表現できる形状とできない形状があり、モチーフを精密に再現することが難しいため、その特徴や印象をデフォルメして表現することとなる。構造的な制約の中、カード上の限られた空間に、どのようにモチーフを表現するかが、制作者の腕の見せ所である。

「来場者を惹きつけ、誰かに紹介したくなるようなデザイン」が実現すれば、イベント終了後、来場者が周囲に情報を拡散し、広報効果が二次的、三次的に広まると考え、試作を何度も重ね、完成度を高めた。(図-7)

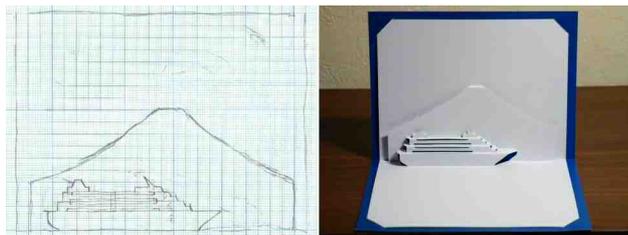


図-7 創作ポップアップカード「清水港」のスケッチと完成形

期日が迫る中、できる限り種類を増やそうと制作に励

んだ結果、観光名所や史跡、土木遺産など、7種類の創作ポップアップカード(図-8~図-13)が完成した。



図-8 「久能山東照宮」



図-9 「登呂遺跡」



図-10 「明治のトンネル」



図-11 「駿府城 巽櫓・東御門」

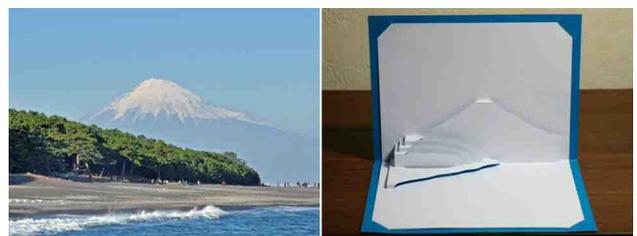


図-12 「三保松原」



図-13 「駿府城 坤櫓」

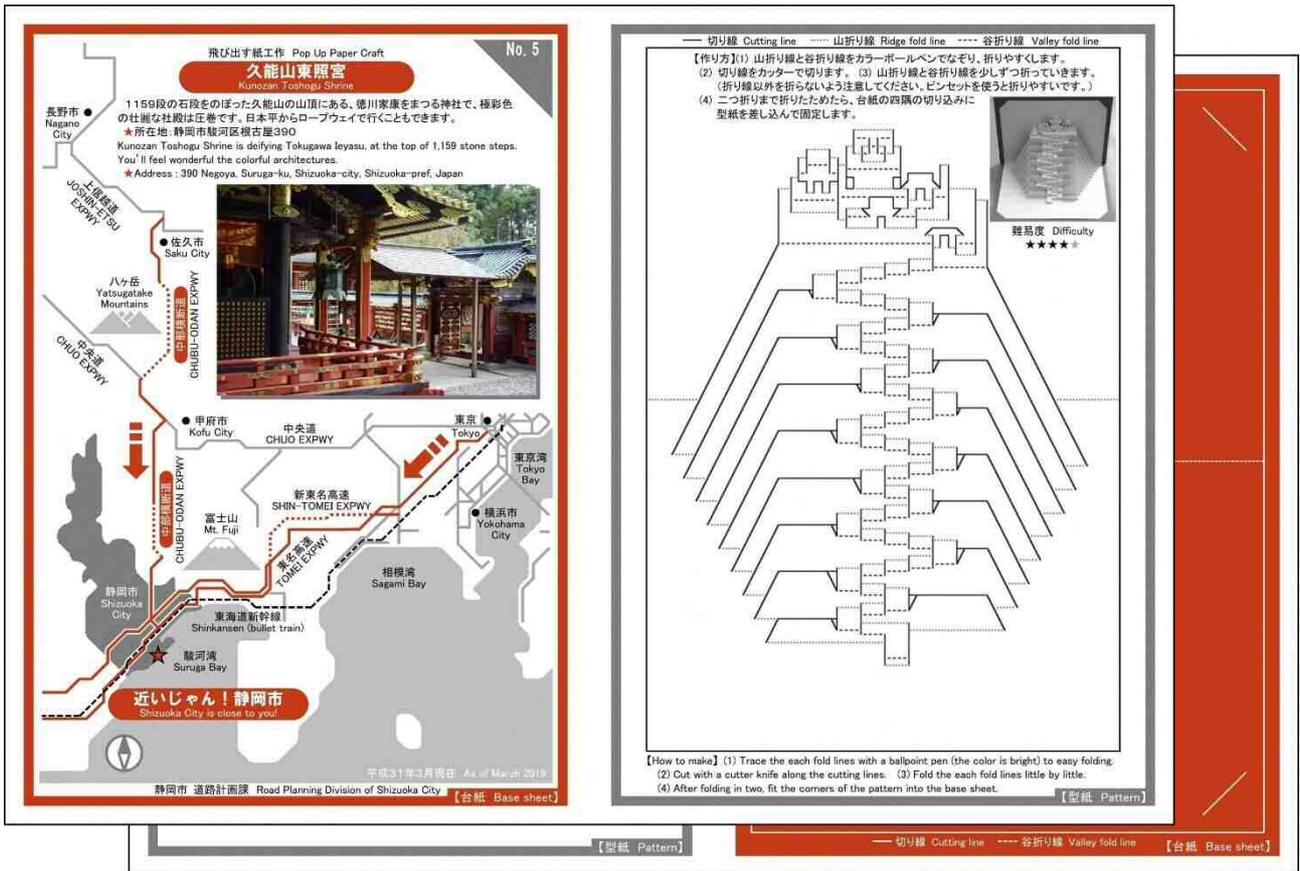


図-14 「久能山東照宮」の型紙（表面・裏面）

来場者へ配布する型紙（図-14）のデザインにも力を注いだ。紙面には主に観光情報を掲載し、中部横断自動車道の情報は略地図のみに絞った。これは、道路自体への関心の有無に関わらず、まず観光情報で来場者の興味を惹き、観光名所への経路をイメージする際に、来場者が自ら中部横断自動車道の存在価値に気づき、印象を強めることを期待している。

観光情報と略地図を掲載した型紙の左面は、組み立てた後に創作ポップアップカードの台紙となり、折り畳んだ際にカードの背表紙となるよう配置した。（図-15）

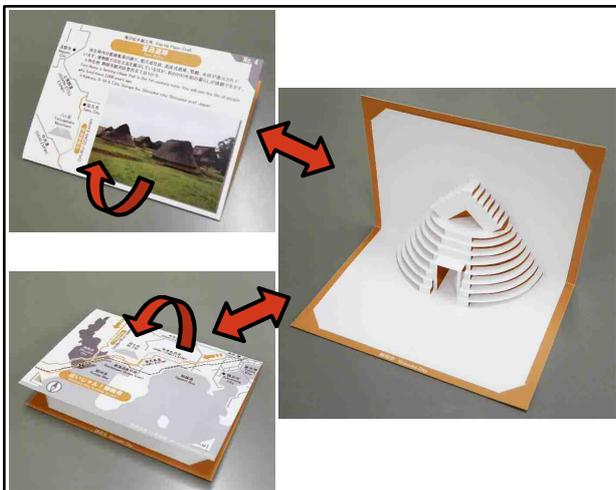


図-15 創作ポップアップカードの背表紙（表面・裏面）

型紙に刻まれたメッセージ「近いじゃん！静岡市」には、中部横断自動車道の利用促進に懸ける本課職員の強い思いが込められている。

3. 創作ポップアップカードの活用・成果

静岡市交流会の当日、広報ブースに展示された創作ポップアップカード（図-16）は、来場者から「会場内で一番すばらしい」との声をいただき、想像を超える大好評を博した。



図-16 創作ポップアップカードの展示状況

展示が気に入り広報ブースに立ち寄った来場者へ、中部横断自動車道の利用促進をPRする一連の流れが生まれ、客足が終始途絶えず、用意した型紙約1,400部が短時間でなくなるなど活況を呈した。（図-17）



図-17 中部横断自動車道の広報ブースの状況

来場された新聞記者の方には、後日、紙面に大きく取り上げていただき、創作ポップアップカードが市民にも広く知れ渡るなど、その後も反響が続いた。

これらの成果は、「来場者を惹きつけ、誰かに紹介したくなるようなデザイン」を目指し、試行錯誤した日々 の結実と考えている。

また、一連の啓発活動が庁内でも高く評価され、平成30年度の業務改善を代表する事例として、本課は静岡市業務改善「2018年度 GOODカイゼン賞」を受賞し、市長から表彰されることとなった。

4. 創作ポップアップカードのその後

創作ポップアップカードはその後、本市の玄関口として多くの人が行き交う静岡駅北口地下情報発信コーナー「しずちカ」での展示（図-18）をはじめ、市内有数の観光施設であるエスパルスドリームプラザで開催された「静岡×山梨 中部横断道グルメフェア」への出展（図-19）など、様々な啓発活動に活用し、中部横断自動車道の利用促進に欠かせないアイテムとなっている。

創作ポップアップカードを活用した広報を、本市への来訪者増加につなげ、中部横断自動車道の整備効果をさらに高めるためには、市外や県外の在住者を対象とした利用促進が特に重要であり、令和元年度は、前年度に引き続き都内で開催された「静岡市交流会～Shizuoka Night 2019～」や、甲府市で行われた「甲府大好きまつり」（図-20）へ出展し、啓発活動を行った。

今後も他都市で開催されるイベントへの出展を目指しつつ、SA・PAや道の駅、沿線の集客施設における展示や型紙の配布など、創作ポップアップカードの新たな活用方法や可能性について模索している。



図-18 静岡駅北口地下情報発信コーナー「しずちカ」



図-19 静岡×山梨 中部横断道グルメフェア



図-20 甲府大好きまつり

5. おわりに

創作ポップアップカードという手法は特異だが、観光名所と道路のように、「インフラ以外のもの」と「インフラ」を結びつけることで、インフラの魅力が伝わる広報を目指した本事例が、他事例の参考となれば幸いである。

いつか、この創作ポップアップカードがきっかけで中部横断自動車道を利用し、静岡市を訪れた方と出会えたなら、制作者としてこの上ない喜びである。